



風説箱の巻物

伊5
2594
2



門 伊 5
籍 2.5 24
卷 2

門 伊
籍
卷

風詠秋之枝折卷之二

目錄

- 一 山陽山陰討自之年
- 一 長列家之自害之年
- 一 同討取生捕之年
- 一 當年建月亦之年



一 耶保^{ヤホ}多^タイ^イ詩^シ之^シ事

一 料理^リ献^{ケン}之^シ之^シ支

一 佛^{ブツ}事^ジ之^シ紙^シ之^シ戲^シ文

一 他^タ國^{クニ}未^ミ壯^シ之^シ戲^シ文



大坂^{オオサカ}近^{チカ}所^{トコロ}公^{キミ}海

山陽^{サンヨウ}道^{ミチ}より攻^{ウケ}入

一橋^{イツハシ}公^{キミ}
春^{ハル}藏^{クラ}公^{キミ}

一之^{イチノ}年

二之^{ニノ}年

三之^{サンノ}年

四之^{シノ}年

五之^{イノ}年 總^{ソウ}統

後^{ノチ}備

藝^{ゲイ}別

福^{フク}山

信^{シン}中^{チュウ}豫^ヨ象

備^ビ系

武^ブ系

津^ツ小

山陰道先子

二子

三子

四子

後備

九別

一子

二子

三子

下子

秋

四子

小子

小倉

板倉

岡

雲品

律和所

田品

岡品

中津	久留保	柳川	熊本	肥前	薩品	松山	宇都	高松	河波	七
----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

山崎

八幡

豊後橋

宇治橋

戸田
大久保

宮津
小湊

有馬中橋

小倉伝馬

大坂

堺

西之宮

尾崎

紀井高
別所松

紀品
宿留

後堂
姫路

会津

之庫

明石
薩島

七月十日長尾上之系次取之りし一徳地
より淀川筋と船中より大坂川湾口より
自雲次より大姓名及し

坂田延之節
田中清物

和氣全徳
山田文松
今 孫之節
桂 勝之節
今 子市
竹内川徳之節
宇津野之節
以上

冊者自書仕換
及今身家全
之至也

完安久之也
山田龜之進

同日同席上系地分形
高松度國物之生捕也

勝平
之
三

福田系物
西子又物
桑子系物
江津甲之進
佐乐系物
源千系物
右片今年系物

松林居士

回花

石川居士

寅衣

田中居士

晴平

松林居士

信七

深田居士

忠三郎

高野居士

澁花

日下

梅大郎

吉山居士

石藏

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

苗字不記
苗字不記
苗字不記

依以師

福系能信家来

后井信理郎

口

八十三

吉川福七

年名

九田征之助

十九

苗字不記

诹花

二十

西村宗平

二十七

右思人教
右思人教
右思人教

同日橋
同日橋
同日橋

茂花

早

茂次

二十

永花 二七
政吉 二七
和吉 二七
吉次 二七
久吉 二七
明 二七

元次郎 二七
兼次郎 二七

右大坂花屋敷より大坂南門外に於て
右の如く在りし人等也

元次郎の口よりかく例の如き事
別ニ相尋ねし所より一と一とあり

大へシアリ 小ツクリハカリ

公武和合諸夷掃蕩海土終平

中字五下り 耶保多意

馬鹿作

殘外洛中燒

執藩中國首

益易交人留

嗚咽中國議
打寫洋會燒
盛外國神亂

向陰山城因
諸城代名渡

聞東國西吐
歎借家數潰

六條標再獻立

協同全る至居毎日

御飯

長谷川

つふ指身

白のまじり
まろんきん

糸心の手切
か

トフナルコトカマシ

け

討死の切腹
贈

テヨク
指口

マワヒラ
平
御史

洛中
台
椀

ちやん
茶碗
上茶碗

大筒
たいひき
台
焼
塩

ロシ
香の物

二京中

雨
り
ま

今年六
名く湯

腰の
長
い

えら
松茸

諸色
まか
根

法料
根

安心
根

桐屋
今
夕

用心
水

焼
目

茶
利

えら
子

何
漬

か
漬

口懐

元治元年三月廿九日大伴の御
中 貴方より書きたる事 正に御
江余花より 志老年如の
百景 西余花より 望

其後二〇

大伴を候へ入伴の
御心成り

奉状上殿文

少の紙示物仕は
江の事令
此紙の紙示物仕は
と下り底下も
為代大伴方用

凡そ中々此書を以て水部（水部）の事

天皇御即位の御事（御事）に於ては此書と同

書に記す所を以て水部（水部）の事

に記す所を以て水部（水部）の事

五年（五年）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

水部（水部）の事（事）に記す所を以て

平宿方父大亦承名言云積功了内江
江岸者此と途中と云々申一實例
首宿之と教述派と知り未了子云
貴亦此事於申家子所人九節三好
也中服之と別九事村之江取功子取人
付功之と申仲師及中人肩入事初後
又級之と取以人坊之と依之附之と云
批判之と一人之也物之と四事之同也

貴亦此事於申家子所人九節三好
也中服之と別九事村之江取功子取人
付功之と申仲師及中人肩入事初後
又級之と取以人坊之と依之附之と云
批判之と一人之也物之と四事之同也
貴亦此事於申家子所人九節三好
也中服之と別九事村之江取功子取人
付功之と申仲師及中人肩入事初後
又級之と取以人坊之と依之附之と云
批判之と一人之也物之と四事之同也

わが侍し新柄也其意も余素正に
とらば此のまじり合ふ人共く一
果其門に合ふ事代も人殺さ
しり也危も解も此風と改回治
門治しむ也此は其後也
何れ相違中太も好む事
以合相違物しりて是れ信と之
そは其是非必ありて法合しり

私意も一もあつて其意も書付るも
安んたしりて其意も書付るも
一も身入事しりて其意も書付るも
此も其意も大物と其意も書付るも
此意も書付るも其意も書付るも
此意も書付るも其意も書付るも
此意も書付るも其意も書付るも
此意も書付るも其意も書付るも
此意も書付るも其意も書付るも
此意も書付るも其意も書付るも

暮り終ふしゆあさよそて種ふあふ
投おれしそと仲ゆあし知と荒
南風杯とせしゆ——
一陽のあはれし一坪あしひてふあ
ゆら桐花大海はあし毒ふあ
しゆあさよそてあふしゆ
遊——のふあふあふあふあふ
あふあふあふ

子 昔 蘭 國 公 亦 一

大 如 在 九 節 云 節 叙

風 鼓 秋 の 枝 折 卷 之 式 終



